

一人一人、教材に工夫

幼稚園から高等部まで36人が学ぶ校舎には、玄関をはじめ新聞置き場が複数あり、児童生徒が日頃から親



鹿児島聾学校（鹿児島市）

しめるよう工夫されている。記事を使った掲示物も目立つ。

障害の個人差が大きいため、一人一人の言語力や思考力のレベルに応じた教材や学習法を取り入れる。高等部の授業では、世論が割れて選挙の争点となるような記事を探し、自分との関わりを考えた。週1回は、朝自習でも新聞を活用する。2年の山下諒翔りょうしょうさんは「漢字の勉強になる」。3年の石原愛梨さんは「社会で今何が起きているのか知ることができる」と話す。

実践校3年目。本年度からは、隣接する寄宿舎でも記事の掲示や「推しのニュース」紹介などに取り組んだ。（赤間早也香）

朝自習で新聞を活用する高等部の生徒＝鹿児島市の鹿児島聾学校